

パッケージソフトウェア品質 認証制度の発足に向けて

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 (CSAJ) 会長
株式会社オービックビジネスコンサルタント 代表取締役社長

和田 成史



一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 (CSAJ) では、今年6月に「パッケージソフトウェア品質認証制度」(略称「PSQ 認証制度」)を開始しました。これは、国際規格であるISO/IEC25051及び日本工業規格JIS X25051「ソフトウェア製品の品質要求及び評価—商用既製 (COTS) ソフトウェア製品に対する品質要求事項及び試験に対する指示」に準拠した仕組みで、ソフトウェア製品の品質を認証する制度です。

ソフトウェア製品は、触れることができない財(無形財)であり、かつ経験財であるので、使ってみなければその品質や機能・性能の良さは確認できません。一般的に、ソフトウェア製品を購入しようとするユーザー(企業や個人)は、その製品のパンフレットや製品説明書、あるいはマニュアルを頼りに製品を選択し、購入を決定します。場合によっては、販売員等から直接説明を受けることもあれば、デモを見ることもあるかも知れませんが、製品説明書やマニュアルが重要な役割を持っていることには変わりはありません。したがって、こうしたソフトウェア製品のドキュメントに必要な情報がきちんと記述されていて、かつその情報通りにソフトウェアが動作するかどうか、ユーザーにとっては非常に重要になってきます。

PSQ 認証制度は、こうしたソフトウェア製品という財の性質を考えて、次の三点を第三者として確認します。第一は、製品説明書やマニュアルにユーザーが必要とする情報、特に品質に関する情報がきちんと記述されているかどうかで、第二は、製品説明書やマニュアルに書かれているとおりにソフトウェアが動作するかどうかです。適合性が確認できた製品やその説明書には、PSQ マークを付けることができます。

つまり、そのソフトウェア製品を購入、利用しようというユーザーが参照するドキュメント類に、そのソフトウェアの機能性、信頼性、保守性、効率性、使用性、移植性などの様々な品質特性がきちんと記載されていて、それが実際にソフトウェアとして実現されているかどうかを確かめて、その証としてPSQ マークというお墨付きを付与するという仕組みがPSQ 認証制度なのです。

この仕組みによって、ユーザーは製品説明書などのドキュメントを信頼し、安心してソフトウェア製品を選択できるようになります。また、国際市場における日本のソフトウェア製品の品質の高さをアピールすることもできるでしょうし、同時に日本のソフトウェア製品の品質底上げにも役立つだろうと思います。そして、国内外のパッケージソフトウェア市場の拡大にも寄与できると考えています。

CSAJでは2010年度にソフトウェア品質基準に関する研究を開始し、それが今回のPSQ 認証制度という成果につながったのですが、ほぼ同じ時期に情報処理推進機構(IPA)のソフトウェア・エンジニアリング・センター(SEC)でも「ソフトウェア品質監査制度(仮称)」の検討が進められてきました。実は、PSQ 認証制度で用いる評価基準はSECの活動の中で作成していただいたものであり、また、PSQ 認証制度の実証実験もSECの事業として実施していただきました。そしてPSQ 認証制度は、6月にIPAから発表された「ソフトウェア品質説明のための制度ガイドライン」に沿った認証制度としてスタートすることができました。今後もSECとの協力関係を維持・強化しつつ、PSQ 認証制度の適正な運用を通じ、日本のソフトウェア品質向上のために貢献していきたいと考えています。